

解説

味噌曲輪^{みそくるわ}は、西曲輪^{にしまがた}に北接して築かれた館の付属施設です。西曲輪の北柵形虎口^{きたがたこぐち}の土橋を渡ると、その正面に西曲輪を守るために築かれた馬出^{うまだし}と呼ばれる施設が存在します。調査は、馬出の構造・規模を確認する史跡整備の資料収集に伴い実施しています。

調査の結果、石墨^{せきるい}が良好に残っており、おそらく武田氏館^{おおて}大手石墨と同様に「コ」の字状の平面形態であると思われます。また、石墨の門跡に伴う礎石^{そせき}を1基検出しました。石墨は武田氏滅亡後の織豊期^{しよくほうき}の構築物と考えられますが、直下で堀跡を確認し、大手と同様に三日月堀^{みかづきぼり}の形態を呈すか継続して調査を令和元年度に実施しています。